

産業建設委員会 市内現地視察報告

1 日 時 令和2年7月29日（水）13時15分～16時00分

2 視察先

- (1) 下東及び三日市輪中堤（舞鶴市下東・三日市）
- (2) 宅地嵩上げ地区（舞鶴市丸田東）
- (3) 大手排水ポンプ場建設工事現場（舞鶴市引土）

3 参加者 谷川委員長、今西副委員長、尾関委員、小西委員、田畑委員、松田委員、事務局書記

4 調査事項

(1) 下東地区輪中堤・樋門

下東地区の輪中堤及び樋門施設の状況について調査

① 対応者

国土交通省福知山河川国道事務所副所長他
舞鶴市建設部長他

② 施設の概要

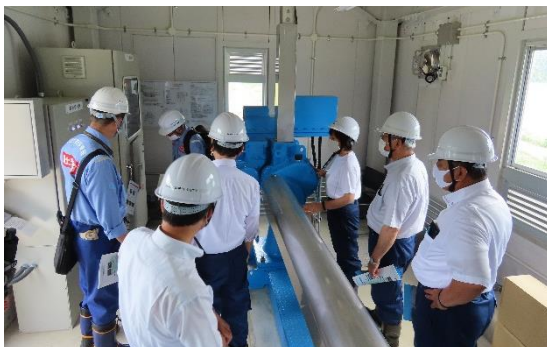
下東地区輪中堤は、水間・中山輪中堤と上東輪中堤の間に位置する約1240mの輪中堤である。

由良川緊急治水対策事業により、令和2年3月末に完成。

樋門については、国所管の「佐織谷川樋門」と市所管の「一ノ木川樋門」が設置されており、この2つの樋門の管理については、国と市それぞれが、地元の下東自治会に委嘱され、本年6月から運用が開始している。

③ 考察

佐織谷川樋門の操作室内部には、エアコンが設置されているほか、停電になった場合の自家発電機も設置されている。また、水や乾パンなどの非常食も準備されており、万が一に備えての整備がきちんとなされていた。



水位を検知するセンサーや監視カメラを用いた福知山河川国道事務所での一括監視システムの整備も確認。実際に佐織谷川樋門のスイッチを入れて樋門の動作確認を確認した際、この樋門の正確さと力強さを感じることができた。強固な輪中堤と2つの樋門が、由良川水害時の外水対策に対して

非常に大きな効果を発揮するであろうことが確認できた。



(2) 三日市地区輪中堤

三日市地区に建造が進められている輪中堤の現状について調査

① 対応者

国土交通省福知山河川国道事務所副所長他
舞鶴市建設部長他

② 施設等の概要

三日市地区輪中堤は、由良川緊急治水対策として、洪水から集落を効率的に守るために進められている延長約 1140m の輪中堤である。

この輪中堤の天端は、将来的に府道としての供用が予定されており、治水対策はもとより、地域の生活道路としての機能も有するなど住民の暮らしに大きく影響する施設となっている。

③ 考察

輪中堤の盛り土と天端については、概ね完成しているが、付帯する水路や2か所の乗り越し道路は一部未完成であるが、令和2年度末には完成予定。

国管理である樋門（1か所）は、本年6月に完成し、運用開始となっている。樋門操作員については、三日市地区から2人が選任されている。

輪中堤を府道供用することについては、輪中堤の沈下が収まった時点で判断されるものと理解できたが、水路等の工事の遅延によって、堤外農地の作付けについては支障がでるため、注視していく必要がある。



(3) 丸田東地区宅地嵩上げ

丸田東地区における宅地嵩上げの進捗状況の調査

① 対応者

舞鶴市建設部国府事業推進室長

② 施設等の概要

「河川整備基本方針」に定められている「災害危険区域に関する条例」を満たす高さ「計画高水位（HWL）」での嵩上げ対策を調査。災害危険区域に指定されている由

良川流域には、宅地嵩上げの計画戸数は、259戸。現在、そのうち185戸について嵩上げが完了し、残す計画は70数戸となっている。

なお、宅地嵩上げ事業については、令和元年度で終了予定であったが、進捗の遅れが生じている様子であり、事業完了時には舞鶴市が国へ報告することとなっている。

③ 考察

「災害危険区域」に指定される一方、引き続き地域で暮らすことを選択した地域住民にとって、水防災対策は非常に重要な政策である。

今回調査を行った宅地嵩上げ事業について、実施済みの家屋は、頑丈なコンクリートや石垣で支えられた基礎に住家が立地しており、災害時の安全確保・地域住民の安心した暮らしへの支援につながっているものと考えられる。

(4) 大手ポンプ場（※注. 工事休止中の現場であるため、ヘルメットの着用なし）

高野川大手ポンプ場建設工事について、工事進捗及び今後の計画内容を調査

① 対応者

舞鶴市上下水道部下水道整備課浸水対策担当課長他

② 施設等の概要

高野川流域における内水排水ポンプの設置については、「大手ポンプ場、静溪川ポンプ場、竹屋ポンプ場、寺内ポンプ場、折原ポンプ場、松陰ポンプ場」の6ヶ所が計画されており、そのうち、大手川・静溪川・竹屋・寺内・松陰の5か所は、5か年計画で進められる。

大手ポンプ場は、令和元年11月から令和2年5月までにかけて、周辺家屋調査、準備工、土木床堀、仮設矢板、基礎鋼管杭などの工事に着手。

6月から10月初旬までは、出水時期にあたるため工事を中断し、10月中旬から令和3年3月末までをもって、コンクリート躯体工事、竹屋橋撤去、竹屋橋・躯体工事の完工までを予定されている。令和3年度からは、ポンプの機械設備工事、電気設備工事、に着手予定の旨説明を受けた。

(3) 考察

本件事業に伴う竹屋橋撤去工事に関し、交通量の多い事業地の様子から地元の要望もあり、躯体部分の出来上がりを活用して仮設橋を設ける予定であるなど、橋梁撤去による地元通行



への影響に配慮した計画であることが感じられた。

大手ポンプ場の排水能力は1分間に387立方メートルと大型ゲートポンプが設置される施設であるとともに、自家発電設備も備えるなど停電等の非常時にも対応できる仕様となっていた。

その他、鋼管杭の工事状況や、周辺にある歴史的な農人橋など、周辺環境への影響をなるべく少ない形で工事を進めていく考えが示された。



(了)